

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（5月）

大阪府内の5月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策について、お知らせします。

気温が高くなってきました。農作業中の熱中症には気をつけてください。高温時の薬剤散布は薬害が出やすいので注意しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。
- 新たな農薬の評価手法（短期暴露評価）が導入されることに伴い、登録変更（変更申請中のものを含む）によって、使用が制限される農薬がありますので注意してください。
詳しくは、販売店で提供されるチラシ等や下記ホームページを確認してください。

「病害虫防除グループホームページ 防除指針」<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>

「短期暴露評価により変更される農薬の使用法の周知等について」

http://www.jpnp.ne.jp/osaka/H27nd/ARfDtuuti/ARfDH27_top.html

目次

1	水稲	P. 1
2	ぶどう	P. 2
3	温州みかん	P. 2
4	もも	P.2~3
5	いちじく	P. 3
6	果樹類	P. 3
7	野菜（なす、トマト、たまねぎ）	P.3~5
8	きく	P. 5~6
9	野菜類・花き類	P. 6

病害虫発生・防除情報メールサービス（5月）

1 水稻

《防除時の注意点》

- 昨年、ジャンボタニシの発生がやや多く見られました。早めの対策を行いましょう。

【イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）】



- ◆育苗期間中の苗が高温過湿になりすぎないように、温度管理とかん水を適正に行う。

【縞葉枯病】（ヒメトビウンカ）



- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。
- ◆育苗ほにヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
- ◆発生が予想される場合は、フェルテラチェス箱粒剤やプリンス粒剤、アドマイヤー箱粒剤などの箱施用剤を処理する。

【いもち病】



- ◆補植用の苗が発生源になることが多いので、早めに処分する。
- ◆発生が予想される場合は、ビームプリンス粒剤やオリゼメートプリンス粒剤などの箱施用剤を処理する。

【スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）】



- ◆ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
- ◆水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効である。
- ◆田植直後にスクミノンなどを散布して、食害を防止する。

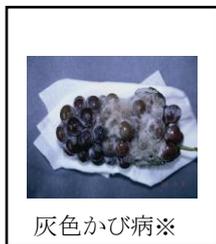
注) スクミノン使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。

2 ぶどう

《防除時の注意点》

■ハウス内の湿度が高くなりすぎないように、注意しましょう。

【灰色かび病】

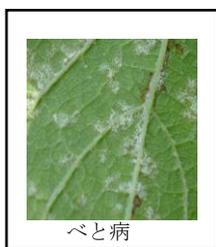


- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆発生を認めたら、オンリーワンフロアブル（前日まで）、ピクシオDF（前日まで）などを散布する。

【べと病】

《防除時の注意点》

■露地の多発ほ場では梅雨前の予防が重要です。



- ◆予防的にICボルドー66D、ICボルドー48Q、ストロビードライフロアブル（14日前まで）、レーバスフロアブル（7日前まで）などを散布する。
- ◆農薬を散布する際は、ジベレリン処理との近接散布を避け、3日以上開ける。

3 温州みかん

【そうか病】

- ◆若い木に発生が多い。
- ◆昨年多発した園では、予防的にトップジンM水和剤（前日まで）、ストロビードライフロアブル（かんきつ）（14日前まで）などを散布する。

4 もも

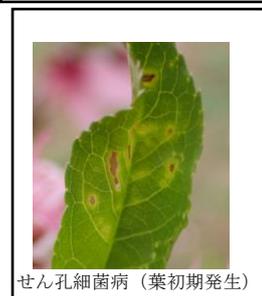
《防除時の注意点》

■昨年、せん孔細菌病が多発しました。発生の多い園地では降雨前の防除を徹底しましょう！

【せん孔細菌病】



- ◆春型枝病斑は見つけ次第、樹に病斑部を残さないように、健全芽も数芽含めて摘除し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆発生が見込まれる時期に、バリダシン液剤5（7日前まで）、スターナ水和剤（7日前まで）、マイコシールド（21日前まで）を散布する。
- ◆風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。



【カイガラムシ類】

- ◆幼虫発生期に、アプロード水和剤（幼虫のみに効果、14日前まで）、コルト顆粒水和剤（前日まで）、モスピラン顆粒水溶剤（前日まで）などを散布する。

5 いちじく

《防除時の注意点》

- 気温が上がり、発生が増える時期になっています。

【アザミウマ類】

- ◆園地周辺の除草を行う。
- ◆ディアナWDG（前日まで）、モスピラン顆粒水溶剤（前日まで）などを散布する。

6 果樹類

【カメムシ類】

- ◆もも、うめ、かき、ぶどう、みかんなどの果実に傷をつける。
- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を確認した場合は、もも、かき、かんきつでは、
アディオソ乳剤（かんきつ14日前まで、もも7日前まで、かき7日前まで）
モスピラン顆粒水溶剤（かんきつ14日前まで、もも前日まで、かき前日まで）
 などを散布する。（作物毎に登録内容が異なるので注意する）

7 野菜（なす（施設・露地）、トマト、たまねぎ）

《5月前半の病害虫発生状況》

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす （施設）				アザミウマ類		
			すすかび病・灰色かび病			
			うどんこ病			
トマト・ミニトマト （施設）				葉かび病・すすかび病		
				灰色かび病		
たま ねぎ				べと病		
			白色疫病			
			ネギアザミウマ			

<なす>

《防除時の注意点》

■暖かくなり病害虫が増えやすくなってきました。初期防除（予防散布）を徹底しましょう。

【アザミウマ類】（ミナミキイロアザミウマ・ミカンキイロアザミウマ）



ミナミキイロアザミウマ※

- ◆高温小雨で増殖しやすくなる。
- ◆この時期にはネギアザミウマ（黒褐色が多い）が収穫時期を迎えたタマネギから多く飛来（特に露地）するが、ミナミキイロアザミウマやミカンキイロアザミウマと異なり、なす果実への被害はほとんどない。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC（前日まで）、モベントフロアブル（前日まで）ブレオフロアブル（ミナミキイロアザミウマ）（前日まで）を散布する。

【すすかび病・灰色かび病】



すすかび病

- ◆ハウスを閉め切り湿度が上がると発生しやすくなる。換気を行い、湿度を下げるなど注意する。
- ◆発生前に、ベルコート水和剤（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を、発生を認めたら、トリフミン乳剤（すすかび病）（前日まで）、カンタスドライフロアブル（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を散布する。

【うどんこ病】



うどんこ病

- ◆窒素過多、高温で乾燥すると発生しやすくなる。
- ◆発生前に、ベルコート水和剤（前日まで）、フルピカフロアブル（前日まで）を、発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤（前日まで）やアフエットフロアブル（前日まで）などを散布する。

<トマト>

■発生は平年並ですが、抵抗性品種ではない場合、発生に注意しましょう。

【葉かび病・すすかび病】



葉かび病の病斑

- ◆窒素過多、過湿条件で発生する。
 - ◆発生前に、ダコニール1000（前日まで）、ベルコートフロアブル（前日まで）を散布し、発生を認めたら、トリフミン水和剤（前日まで）、アフエットフロアブル（前日まで）を散布する。
- 注）トマトとミニトマトで登録内容が異なる場合があるので、ラベル等で確認すること。

【灰色かび病】

- ◆低温多湿時に発生が多い。花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。
- ◆発生前にベルコート水和剤（前日まで）やフルピカフロアブル（前日まで）等、発生を認めたらロブラール水和剤（前日まで）やアフエットフロアブル（前日まで）などを散布する。

<たまねぎ>

■昨年の春期に多発生しました。発生前の予防散布を必ず行いましょう。

【べと病】



べと病

◆昨年の多発生を受け、大部分のほ場で防除がしっかり行われているため、発生はやや少なくとどまっています。しかし、防除が行われていない／防除の遅れた一部のほ場では、二次感染による発生が見られます。

周辺へまん延させないようにしっかり防除しましょう。

◆発生（2次病斑）を認めたら、**リドミルゴールドMZ**（7日前まで）、**プロポーズ顆粒水和剤**（7日前まで）、**ザンプロDMフロアブル**（7日前まで）、**ベトファイター顆粒水和剤**（7日前まで）を散布する。

注）耐性菌の発達を防ぐためにリドミルゴールドMZの連続散布は避ける。

【白色疫病】



白色疫病

◆温暖で雨が連続すると発生しやすい。

◆発生を認めたら、**リドミルゴールドMZ**（7日前まで）か**プロポーズ顆粒水和剤**（7日前まで）を散布する。

【ネギアザミウマ】



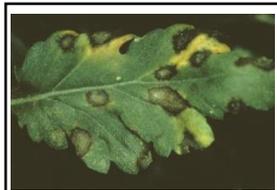
ネギアザミウマ※

◆成虫は黒褐色または淡黄色（約1.5mm）、幼虫は淡黄色（約1.0mm）。被害部は小斑点となる。早春から発生し、温度の上昇とともに増加する。

◆発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**（7日前まで）、**ディアナSC**（前日まで）、**プレオフロアブル**（3日前まで）を散布する。

6 きく

【黒斑病、褐斑病】



黒斑病*

◆雨滴によって感染が拡大するので、晴れ間にしっかり防除する。

◆**ダコニール1000**、**ストロビーフロアブル**などを散布して予防する。

【白さび病】



◆**ストロビーフロアブル**などを散布し、予防に努める。

◆発生を認めたら、**トリフミン乳剤**を散布する。

【アブラムシ類】

- ◆発生を認めたら、コルト顆粒水和剤、チェス顆粒水和剤などを散布する。

【アザミウマ類】

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アフーム乳剤（ミカンキイロアザミウマ）などを散布する。

7 野菜類、花き類（露地栽培）

【アブラムシ類】

- ◆高温乾燥条件で増殖が早く、例年より多い傾向が見られる。
- ◆作物から吸汁し樹勢を弱らせる。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な結果をもたらす。

【オオタバコガ】



なすの花に寄生する

オオタバコガ幼虫

- ◆果実や茎などに食入し、食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。
- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布する。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」 (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>) を参照してください。

農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください

※原図：(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所

* 出典：ひと目でわかる 花と野菜の病害虫 大阪府園芸植物病害虫図鑑 (社団法人大阪府植物防疫協会)

次回の情報は、6月15日頃にお知らせします。